

オランダの小学校英語教育

広島大学大学院 猫田 和明

0. 本稿の位置づけ

今日、日本では小学校の英語教育について様々な議論がなされている。2002年以降、英語は教科としてではなく、「総合的な学習の時間」の中で教授可能になるようであるが、どのような形であれ、小学校に英語教育を導入するとなれば、中学校にいかに関連させるのかという問題が起こるのは当然の成り行きである。和田(1996:18)は、中学校では現在よりもかなり高度な内容になるのか、それとも学習の発展段階をきめ細かくゆるやかなものにするのかについて具体的に試案を提示する必要があると指摘し、金谷(1997:37)は、小学校への英語教育導入の論議には、必要以上に開始時期へのこだわりが見え、「その後」についてのプランが出ていないと述べている。これに関して、松香(1997:87)は、すでにこの問題に直面している EFL 国オランダに注目し、オランダの実状から学ぶべき点として次のような指摘をしている。

「オランダの中学校1年生の教科書は、この20年間で驚くほどの変貌をとげた。その理由の一部は、子供たちが小学校で英語になじんでくるため、聞いて分かることや口頭で言えることが増え、英語で英語をコミュニケーションに教えるための教科書が変わっていったからである。この事実から考えると、日本における小学校への英語導入問題は、中学1年生の教科書を大幅に変えるという具体的な仕事と同時に進めていくのが、小学校でやったことが中学校へうまく連携し、小学校でやったことが無駄にならないための最も現実的な案であろうと思われる。」

ここでは小学校での英語教育が中学校の教科書の変貌を導いたことが述べられているが、この変貌は同時に「Grammar-Translation Method から Communicative Language Teaching へ」という世界的な流れによって導かれたということも考慮しなければならないだろう。つまり、この変貌は両者の視点から統合的に見ていくことによって説明されるべきものである。日本の英語教育も同様な流れの中で小学校から英語を導入する方向に向かっており、中学校への連携問題を回避できないことが予想されるという状況を考慮すると、オランダにおいて教科書の小・中連携が具現化されつつある今、同国の教科書に注目することは意義があると思われる。

オランダの小・中学校の外国語教育においては教科書が重要な役割を果たしており、ほとんどの教師は少なくとも1つの教科書を使用し、授業時間のほとんどを教科書やワークブックの活動に費やす(Oostdam and Rijlaarsdam 1995:35)。一方日本においては、原田(編)(1989:21-31)の日本における教科書に関する調査により、特に外国語(英語)科において教科書への依存度が高いという結果が報告されている。したがって、教科書の重要度という点ではオランダと日本は共通しており、この点においてもオランダの教科書に注目することは意義があると思われる。

当然ながら両国の外国語教育をとりまく環境は大きく違い、オランダで使用されている教材をそのまま日本に当てはめることはできない。しかし、以上に述べたような理由から、オランダにおける中学校の教科書の変貌の仕方に目を向けることで、コミュニケーションのための英語教育を志向した教材開発のあり方について学ぶ可能性があることを強調したい。

本稿では以上のような計画の前段階として、中学校の教科書の変貌に影響を与えている小学校英語教育とはどのようなものかについて概観し、次の段階へのステップとしたい。

1. オランダについて

1.1 オランダと英語

オランダの公用語であるオランダ語は言語系統からみると英語とドイツ語に非常に近い。オランダは国土も人口も日本の約10分の1という小国であり、地理的にはイギリス、ドイツ、ベルギーに囲まれ、国内での外国語(特に英語)の使用頻度は高い(小林 1995:87)。戦後、特に映画・テレビといったマスメディアによって、英語はオランダに普及していった。オランダでは吹き替えを行わないため、外国製の映画・テレビ番組はオランダ語字幕がつけられ、そのまま放映・放送される。最近では、アメリカ製のものがかなり有力であり、その影響からか、最近のオランダ人の話す英語は米語的であると言われている。近年ではヨーロッパ統合による国際化と、オランダに定住した非オランダ人の増加による社会の多言語化・多文化化が進んでいる。特に1960年代、1970年代の経済成長期には、多くのトルコ系、モロッコ系労働者が流入し、1992年現在では全人口のおよそ7%がオランダ国籍を持たない移民で構成されている(Matsuka 1996:14)。このような状況の中でも、オランダ国内での日常生活にはオランダ語しか必要でなく、英語はオランダ人にとって外国語であることに変わりはないが、世界に開かれた貿易国家であるオランダでは、英語の重要度が下がることは考えられない。

1.2 教育的背景と教育制度

憲法が保障する「教育の自由」の原則に基づき、ローマカトリック、プロテスタントなどの宗教団体やその他の民間団体がそれぞれの信念に従って学校を設置している。このため多様な私立学校が存在し、私立学校の在学者が在学者総数の約70%を占めるまでになっている。しかし、財政的には、公立、私立の区別はなく、政府は全く同じ基準で公私立学校すべての学校経費を負担している(文部省 1995:89)。オランダの教育で最も特徴的なことは、その多様性と自由さである。教育制度は六・三・三・四制などと画一的に区切れないほどシステムが入り組んでいる(APPENDIX A 参照)。中等教育段階で4つのコースに振り分けられるが、コース間の移動も可能である。また学校を選ぶ自由と並んで、学校をつくる自由もある。通学している学校に合わない生徒は次々と転校するし、またどうしても教育理念に合う学校がない場合、親が学校をつくる権利も保障されている(栗原 1995:290-291)。1985年以前は6～16歳が義務教育であったが、1985年から5歳に達した翌月から16歳になる学年の終了までとされ、11年以上になっている。実際には通常5歳になる学年の当初から入学しているため(4歳入学)、一般には12年間の義務教育となる。また、1985年から16歳以降、全日制学校に通学しない場合は、18歳まで週当たり1日ないし2日のパートタイムで学校に通う義務が課せられるようになっている(文部省 1995:83)。

2. 小学校における英語教育

2.1 教育課程

1986年にそれまで各校任意の形で行われていた小学校の英語教育が必修化された。8年間の小学校教育において、英語は多くの場合7年生(日本の小学校5年生に相当)から導入される。制度上は6年生(日本の小学校4年生に相当)から導入することが許されているが、6年生から英語教育を実施している学校は5%にすぎない。英語の授業は週1回、全小学校の平均時間は47分となっている。卒業までに受ける英語の授業時間は70時間～80時間である。英語は必修となっているが、クラス担任の裁量部分が大きく、教えている内容、時間、レベルには大きなバラツキがあるのが実状である(松香 1997:85-86)。内容及び教育方法については特に全国的な基準・規定は定められていないが、初等学校修了時に達成すべき学力の水準が「到達目標」として定められており(文部省 1995:83)、これが日本の指導要領に相当する。現行のものは1998年版である。1993年版では到達目標に関して比較的詳細な記述がなされていたが、翌年には各教科における記述量を統一するという目的でかなりの縮約が行われ、その記述量は1998年版にも受け継がれた(APPENDIXES B, C, D 参照)。どの版にもオランダと英語の関わりについて意識させるという目標が見られることは興味深い。

2.2 教科書・教材

90%の学校では教科書を使用しており(松香 1997:85)、ほとんどの教師がテープを利用している(Matsuka 1996:39)。オランダには教科書検定制度はなく、各出版社が発行した様々な教科書の中から、学校が自由に採択する方法を採っている。小学校の英語教科書ではトピック別の単元構成が目立つ。内容は、自分のことや家族、自分の家や部屋、遊びやスポーツや趣味、旅行中に必要なこと、買い物、食べ物や飲み物、交通や道案内、言葉や外国語、天気、時間、月、誕生日など日常的なことが主である(松香 1997:85)。

1995年現在、*Engels Basisonderwijs* (占有率 24.2%)、*Real English* (占有率 25.6%) が広く使われている(Oskam 1995:40)。この2つのシリーズは10年以上前に出版されたものであるため、内容が古くなっているという指摘があるが、依然多くの小学校で使用されている。教科書の他に簡単な読み物教材を扱っているところもある。また、中学校とのよりよい連携のために、小学校・中学校一貫の教科書作成も進められている(Edelenbos and Suhre 1996:57)。

2.3 授業方法

クラスサイズは25～30人程度で、7年生と8年生(日本の小学校5年生と6年生に相当)が同じクラスにまとめられることもある。英語だけを使って授業をする教師は少なく、子どもたちの理解の程度を見ながらオランダ語を適宜使用している。授業は基本的に教科書に沿って進められているので、教科書のあり方が非常に重要である。中でも英語を聞いて理解すること、また英語を話し相手に理解させることといった音声面の指導が重視されている。まず、あるトピック(学校・スポーツ・天気・買い物など)に関連した語彙をなるべく子どもたちから引き出すやり方で提示し、テープやビデオで会話を聞かせて理解させた後、クラス全体又はペアワークなどで、表現を練習させる。そして、それを使ってペア又は小グループで対話文を作り、クラスに発表するといった活動がよく行われている。このようなパターンは「4段階モデル(four-phase model)」(van Barneveld et al. 1987 in Oskam 1995)と呼ばれる指導手順に基づいている(表1参照)。

表1 4段階モデル(four-phase model)

PHASE	CONTENT
1 introduction phase pre-receptive	activating informal knowledge warming-up for presentation phase
2 presentation phase and comprehension receptive	presentation of new language working with new input through directive assignments
3 practice phase reproductive	practicing new language and skills in closed language-use situations
4 transfer phase productive	applying new language and skills in combination with (activated) prior knowledge in open language-use situations

* van Barneveld et al.(1987)を引用した Oskam 先生(アムステルダム大学) に英訳を依頼したもの

2.4 教員養成

初等学校教員の養成は、高等職業カレッジ(HBO)の初等学校教員養成課程で行われる。修業年限は、フルタイムで4年、パートタイムで6年である。卒業者には、初等学校ですべての教科を教える正規の資格が与えられる(文部省 1995:88)。英語は全教科のうちの1つに過ぎず、十分なトレーニングが行われているとは言い難い。また、英語は1986年に必修化された新教科のため、現職教員再教育プログラムが実施されたものの、全教員のうちの38%は全くトレーニングを受けていないという状況である(Matsuka 1996:110)。

2.5 学習到達度

オランダの小学校英語教育は決して十分な体制で行われてはいないが、子どもたちは英語学習に対して好意的であり、予想以上の成果をあげている。1992年、CITO(国立テスト研究所)は学力調査を行い、2,000人の子どもたちが参加した。その結果によると、子どもたちが最も力をつけたのは「英語を聞いて理解すること」であり、次は「単語」となっている(松香 1997:85, Vinjé 1993)(表2参照)。交通・天気・建物の描写に関する語彙が最も効果的に習得されており、家族関係・時間・服装に関する語彙が最も難しいようである(Edelenbos 1997:66)。

表2 CITO(国立テスト研究所)による学力調査の結果 (松香(1997) p.86より引用)

技 能	良 い	普 通	劣 る
「聞く」話されている英語を聞く	67%	25%	8%
英語を見ながら聞き取る	94	6	0
「話す」英語で用事ができる	41	29	30
発音	96	4	0
「読む」書かれたものを読む	29	65	6
辞書を使う	85	5	10
「単語」読む	79	18	4
聞き取る	83	16	1
言う	45	27	28

また同年の調査では、英語・オランダ語・算数・地理・歴史の必修5科目中、英語が一番面白いと答える児童が最も多かった(Vinjé 1993:91)。これを支える一番の原因は言語環境にあると思われる。子どもたちは、テレビ・映画・音楽などを通して日常的に英語に触れる機会が多い。50%以上の小学生は学校外において学校の授業で習うのと量的に同程度の英語を学んでいると感じ

ている (Edelenbos 1997:66)。実際、英語教育が始まる以前の9歳の子どもに知っている英語を書かせたところ、綴りに誤りが多いものの、かなりの量の単語といくつかの文を産出したという (Oskam 1995:72)。これは、オランダに主にマスメディアを通じて英語圏の文化が流れ込んでおり、特に若者の間では英語圏の文化がオランダの文化の一部であるという色合いが濃くなっていること、そして、それに伴って特に語彙の面で英語がすでにオランダ語の一部になっていることを示しており、このことは英語教育に対するオランダの大きな強みである。オランダの小学校英語教育は子どもたちの知っていることを最大限に活かすという基本姿勢のもとに成り立っているのである。

3. 考察

オランダは言語・文化・社会的に外国語(特に英語)学習に関しては多くの利点をもっており、伝統的に外国語には強い国民とされてきた。このため、一見外国語教育は成功するべくして成功しているように見受けられるが、関係者の間では意外に悲観的な見方が多いことに驚かされる。英語が小学校の必修科目として導入されてから10年以上が経過しているが、中学校への連携、教師の質、教材などについて数々の課題を抱えているのである。小学校において子どもたちは日常的な話題に関して聞く・話す活動に慣れ親しみ、かなりの語彙量を学んでいるという事実から考えると、その成果を活かすという意味で、特に中学校への連携問題は最大の課題である。1990年代前半にこの問題が議論され始めて以来、様々な中学校用教科書が出版された。小学校では、ほとんどの教師が教科書に沿った授業を展開しているため、その内容が中学校の教科書に与えた影響は大きいと思われる。中でも *Engels Basisonderwijs* と *Real English* は小学校の英語教科書として長期にわたって広く使われ続けているため、この2つのシリーズに見られる特徴が、近年の中学校の教科書にどのような形で影響しているかという点は興味深い。例えば、この2つのシリーズには各課において学習されるべき言語機能が明記されているが、この影響からか以降に出版された中学校の教科書には文法シラバスに概念・機能シラバスを統合したものが見受けられるようになった。

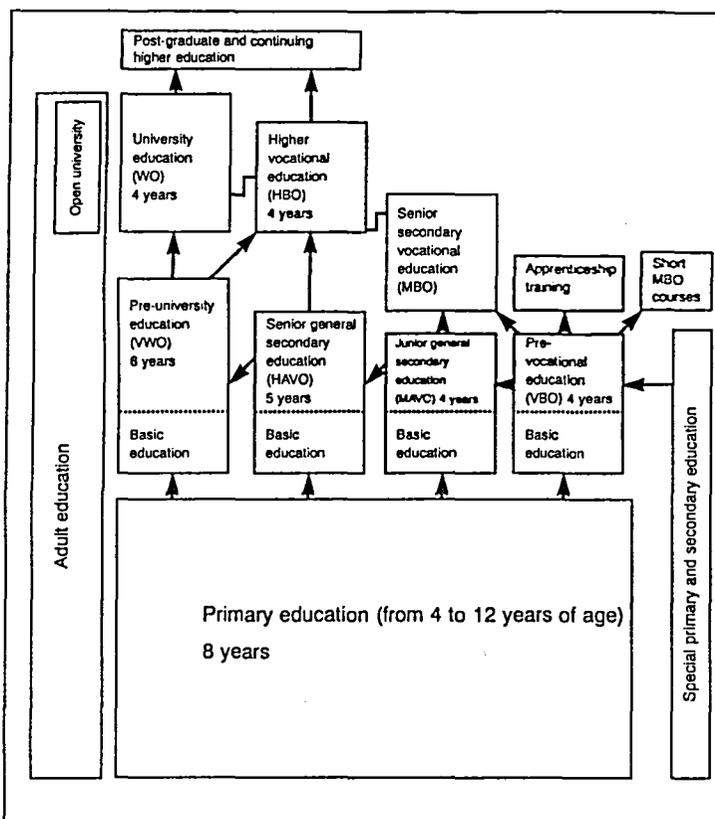
一方日本では、将来、小学校で英語が必修科目になる可能性はあるとしても、その実現にはかなりの時間を要すると思われる。したがって、当面予想される過渡期における中学校の教科書のあり方を考える必要があるだろう。現行の中学校英語教科書はかなりコミュニカティブになったとはいえ、依然としてかなり言語形式に重点がおかれている。影浦(1997:105)の言うように、日本の英語教育を改善するために「中学校から小学校へ」というよりも、むしろ「小学校から中学校へ」という影響を期待するとすれば、よりコミュニカティブな指導が志向されるであろう小学校の英語教育が無駄にならないよう、中学校の教科書をよりコミュニカティブなものに変える必要があるだろう。オランダでは、小学校でのコミュニケーション志向が中学校の教科書における概念・機能シラバスの普及を促した。概念・機能シラバス自体がどのような形で日本の英語教育に応用できるかは一考を要するとしても、日本はオランダにおける中学校の教科書の変貌の仕方から多くの示唆を得ることができると考えられる。

【参考文献】

- 影浦 攻(編著). 1997. 『小学校英語教育の手引』 明治図書.
- 金谷 憲. 1997. 「英語教育ひとりごと」『現代英語教育』 研究社出版. 4月号. 34/1:36-37.
- 栗原福也. 1995. 『読んで旅する世界の歴史と文化 オランダ・ベルギー』 新潮社.
- 小林早百合. 1995. 「オランダの外国語教育に学ぶ」『英語教育』 大修館書店.
9月増刊号. 44/8:87-89.
- 原田種雄(編). 1989. 『教科書の質的向上に関する総合的調査研究 研究成果報告書』
(昭和 61-63 年度文部省科学研究費・特別研究(1)研究成果報告書)
- 松香洋子. 1997. 「オランダの小学校の英語教育」樋口忠彦ほか(編). 『小学校からの外国語教育』
研究社出版. 所収. 82-87.
- 文部省. 1995. 『諸外国の学校教育(欧米編)』 大蔵省印刷局.
- 和田 稔. 1996. 「公立小学校の英語教育：その論点を整理する」『現代英語教育』
研究社出版. 5月号. 33/2:17-19.
- Edelenbos, P. 1997. Evaluation and Assessment. In P.Doyé. and A.Hurrell. *Foreign Language Learning in Primary Schools*. Council of Europe. 63-76.
- Edelenbos, P. and C.J.Suhre. 1996. English in Dutch Primary Education. In P.Edelenbos and R.Johnstone. *Researching Languages at Primary School*. CILT. 47-57
- Kallen, D.(ed.) 1995. *Secondary Education in the Netherlands*. Council of Europe.
- Matsuka, Y. 1996. *Foreign Language Education à la Dutch*. University of Utrecht.
- Oostdam, R. and G.Rijlaarsdam. 1995. *Towards Strategic Language Learning*. Amsterdam University Press.
- Oskam, S. 1995. *Praktische Didactiek voor Engels in het Basisonderwijs*. Coutinho.
- Stoks, G. and R.Diephuis. 1983. *Engels Basisonderwijs groep 7*. Nederlandse Onderwijs Televisie and MUUSSES Educatief.
- . 1984. *Engels Basisonderwijs groep 8*. Nederlandse Onderwijs Televisie and MUUSSES Educatief.
- van Barneveld, F. and B.van der Sanden. 1987. Engels in het Basisonderwijs: Een Leerlinggericht Begin! *Levende Talen* 421. 339-344.
- van der Voort, P. and H.Mol. 1985. *Real English 1*. Uitgeverij Bekadidact Baarn.
- . 1986. *Real English 2*. Uitgeverij Bekadidact Baarn.
- Vinjé, M. 1993. *Balans aan het Einde van de Basisschool*. PPON.

APPENDIX A オランダの教育制度

* Kallen (1995) p.14 より引用



Source: *The Dutch Education System*, Ministry of Education and Science, information brochure.

APPENDIX B 小学校英語到達目標(1998年版)

*現地の英語教育関係者から入手した資料

Definition of the learning area

The objectives of teaching of English in primary school is to make the children familiar with a foreign language at an early age as well as devoting attention to the function of English as an important international language. Pupils recognise English as a source of loan words in Dutch. They lay the foundation of speaking and reading the English language in every-day situations. To achieve this pupils have to make a start with acquiring a basic vocabulary, gain insight in sentence structure and be able to deduce the meaning of words.

A. Domain oral skills

Core objective 1

Pupils understand simple oral texts about every-day situations.

Core objective 2

Pupils understand a sufficient amount of English words to be able to understand oral statements about personal information, house and neighbourhood, food and drink and time.

Core objective 3

Pupils can talk with each other about every-day situations; they have an intelligible pronunciation.

B. Domain reading skills

Core objective 4

Pupils can understand the important information in a simple written text.

Core objective 5

Pupils can look up the meaning of words in a dictionary.

APPENDIX C 小学校英語到達目標(1994年版)

*原著をもとに英訳されたもの(オランダ語版は Oskam(1995) p.38 を参照)

General aims

- Pupils are aware of the role of the English language in Dutch society and as an international means of communication;
- Pupils can use the language as an oral means of communication on an elementary level;
- Pupils have acquired a limited vocabulary with which they can understand the meaning of simple informative texts in every-day situations.

A. Domain listening skills

Pupils have acquired an elementary vocabulary with which they can understand the general meaning of simple informative listening texts and texts that have been selected or adapted for use in primary education.

This vocabulary pertains to the topics:

Personal information, House and neighbourhood, Food and drink, and Time.

B. Domain oral skills

Pupils have acquired an elementary vocabulary with which they can engage in a conversation on a simple level. Attention should be paid to pronunciation, but not to grammar.

C. Domain reading skills

Pupils have acquired an elementary vocabulary with which they can:

- a) select important information from simple informative texts and from narrative texts that have been selected or adapted for use in primary education.
- b) look up the meaning of an English word and the English translation of a Dutch word in alphabetical word lists.

APPENDIX D 小学校英語到達目標(1993年版)

*原著をもとに英訳されたもの(オランダ語版は Oskam(1995) p.36-37 を参照)

General aims

Education in the English language is aimed at teaching pupils

- to develop skills which enable them to use this language at an elementary level as a means of communication in relations with people who use this language either as a native language or as a foreign language;
- to acquire knowledge of the role the English language plays in Dutch society and as an international language.

A. Aural skills

1. The pupils should be able to distinguish the main issues in informative texts and texts specially compiled or adapted for their use by applying context information and knowledge of words (vocabulary).
2. The pupils should be able to understand and participate in simple conversations by applying their knowledge of the language and a vocabulary relevant to a specific topic or situation in conversations on the following topics or in the following situations:

a. personal particulars

- name, first name, surname;
- cardinal numbers to 100;
- address, street;
- old, year;
- Dutch, English, German, French;
- Holland, England, Germany, France;
- brother, sister, father, mother.

b. their personal environment

- house, flat, town, village, country;
- North, South, East, West, middle;
- room, living-room, bedroom, kitchen, bathroom, toilet;
- bed, table, chair.

c. leisure, recreation and hobbies

- football, tennis, basketball, table tennis, swimming;
- pet, dog, cat;
- black, white, green, blue, red, yellow, brown;
- big, small, thin, tall.

d. eating and drinking

- breakfast, lunch, dinner;
- coffee, tea, milk, sugar, water;
- apple, pear, banana, fruit;
- vegetables, potatoes, salad, soup, dessert.

e. time

- evening, afternoon, morning, night;
- time, hour, minute, o'clock, half(past), quarter, before, after;
- days of the week;
- months of the year;
- birthday.

f. descriptions of people

- shirt, jeans, dress, sweater, shoes;
- hair, eyes, nose, arms, legs, foot, hand;
- tall, short, fat, thin;
- wear.

g. in the street

- go, walk, take;
- left, right, straight on, corner;
- ordinal numbers to 10;
- post-office, bank, shop, police-station;
- car, bus, train, bike, foot.

h. in the shop

- pound, penny, pence;
- postcard, stamp, ticket, letter.

i. in the classroom

- pen, pencil, book, workbook, paper;
- write, listen, open, close, take, come, sit down;
- door, window, blackboard, table, chair.

B. Conversation skills

3. The pupils should be able to conduct a conversation on topics or in situations as described below.

Their pronunciation of English should be easily understood by native-speakers of the language.

Such topics and situations include:

a. personal particulars

The pupils should be able to mention

- first name and surname
- address
- age and nationality
- family composition

and obtain this information from others.

b. the personal environment

The pupils should be able to mention and describe

- the town/city/country region in which they live
- the house/flat and number of rooms
- tell whether they have their own room or not and obtain this information from others.

c. leisure, recreation and hobbies

The pupils should be able to

- mention hobbies and interests
- ask questions relating to hobbies and interests
- ask someone to participate in a game and react to an invitation to participate
- tell whether/that they have a pet and obtain this information from others; they should know expressions relevant to the choice of games/sports they play.

d. eating and drinking

The pupils should be able to

- say whether they like certain food or not
- give information on eating habits in their own country and obtain similar information about eating customs/habits from others.

e. time

The pupils should be able to

- tell what time it is
- tell whether something will take place in the morning, in the afternoon or in the evening
- say when it is their birthday and obtain similar information from others.

f. describing people

The pupils should be able to

- describe someone and the clothes worn by that person
- describe the physical features of a person and obtain similar information from others.

g. in the street

The pupils should be able to

- give directions or say that they are unable to give directions
- ask directions.

h. shop, post-office, paying counter

The pupils should be able to

- say which postcard, postage stamp or ticket they wish to buy
- ask how much something costs.

C. Reading skills

4. The pupils should be able to distinguish the main issues in informative texts and texts specially compiled or adapted for their use by applying context information and their knowledge of words (vocabulary).

D. Reference skills

5. The pupils should be able to

- look up the meaning of an English word
- look up the English translation of a Dutch word in an alphabetical list of words (dictionary).